

創建

そうこん

2011・7・15 VOL.46 NO.3 (通巻139号)

巻頭言：倉田 光春・1
平成24年度卒業研究テーマ・2～3
栗岡均先生日本建築学会賞受賞・3
Parisからの1通のメール：浅見和宏・4
東日本大震災・復興に向けて・5
新任の紹介／倫敦雑記：野内英治・6
学術論文・発表論文／教室ニュース・7
教職員名簿・8

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

一生に一度や二度は、「何でこんなに悲しい目に会わなければならないのか、何も悪いことをしたわけでもないのに」と思うことがあるものだが、3.11の震災は、他人事ではなく余りにも悲しすぎる。地震、津波、原発と続き、津波は地震につきもの、原発の爆発メルトダウンに至っては、ある意味人災である。制御できないものに手を出しこの結果、生きる術という人もいるが、思い上がりである。30数年、応用力学を教えてきたのだが、実は、この歳になっても、解らないことが山ほどある。コピーアンドペースト的知識で知っている振りして伝えることができても、何故という自分自身の間にも未だに答えることができず、授業中言葉に詰まることもある。「こんなとき、こうするとこうだ」と現象を説明できても、何故という問いに答えるその原理を説明することは難しい。震度6強の地震で我が家も軋み、被害を受け、大切な食器が割れて取返しがつかない。福島県沖の空白域で一時地震が多発し、これで郡山には震度5以上の地震が来ないだろう。土地は広く10年持てばいいと開放的に建てた我家は安普請である。羽蟻に喰われたが20数年よく耐え、地震前に直し、傾かずに済み幸いである。しかし、住むために直したが、放射性物質が積もり、恐らく資産価値ゼロである。庭で1 μ Sv、なんと道路側溝入口で7 μ Svである。悲しいかな影響を推測するも本当のところわからない。目先の利に走りここまで、汚染が進んでしまった。50年前の阿武隈川は、白い砂浜があり、橋の上から川底が透けて見え、

主流から外れた溜まり水の色はブルーである。土手に横になり眺める青空、午後から入道雲が、そして夕立、貧しくとも幸せな時代である。しかし、高度成長時代になり、上流にパルプ工場ができ、一気に汚れが進み泳げなくなった。その後、東京荻窪の親戚でも井戸の水が枯れ、美味しいお茶が飲めなくなり、何処でも自由に飲めた水も、買うようになる。今や、我家の水道水も飲んで良いものやら心配である。震災後の対応は、これまでの経験や科学知識を生かせず、運用の未熟さ故か後味が悪い。

震災と為になる話

教授 倉田 光春

見えるものと見えないものをはっきり区別し、見えるものから見えないものをできる限り推し量るべきである。利益追求型のコピーアンドペースト的知識人ばかりが登場して不快だ。体裁を整えることはあっても、立場立場で痛みに見合う責任を果していない。責任はとらせるものではなく自ら測るものである。話は変わるけれど、最近気がついた。携帯や電子辞書の文字を大きくしていたのである。これもパソコンの所為か、めっきり文字を書かなくなった。昔の教材が懐かしい。手書きである。我ながら一生懸命でいねいに書いている。今はパソコン上で作りプリントアウト。文章はもちろん図

を描き、式を誘導し、計算結果をグラフにする。すべてパソコン上である。私の気持ち、学生に伝わっているのだろうか。演習、レポートは、ほとんど手書きで頭の中そのものである。だからつらい。考え方、書き方を教えたにもかかわらず、文字や図が踊り、式が跳ねる。0か6か、学生番号、氏名でさえ判読しかねる者がいる。多勢に無勢、目が腐りそうである。製図では、ていねいに描くのに、私の演習はこれでいいって、それは私に失礼だろう。そんなことはありませんと学生は言うのだが、本当か、それとも本当に画けないのだろうか。人は皆、現状を維持する性質があり、影響の大きさに比例して変わり、影響を与えた人も等しくその影響を受けるものである。これぞ人生の3法則。これから生まれた釣合、等しいという概念は、既知から未知を知る、見えるものから見えないものを測る技であり、使えば使うほど術に変わる、人生の転ばぬ先の杖である。考える力とこの術こそ、人生を支える原動力である。君たちは馬鹿ではないが天才でもない。急がず、時間と労力をかけ、ていねいに研ぎ、着実に術に変えたら、必ずバラ色の人生が待っている。授業中仕方なく、「為になる話を聞いて、感動している、そうだろう。君達もっと先生を尊敬し、大切にしないでいいね。」と言うのだが、なんのその一向に変わらず、目が悪くなる一方である。授業はじめに、「お早うございます。」返事は元気良く、終わりには、「先生、お手伝いします、黒板消します。」とってくれる学生が懐かしい。

平成24年度 卒業研究テーマ一覧

建築ゼミナールを受講する学生は、ここに記載されている卒業研究テーマを参照のうえ、所属する研究室を選択しましょう。

計画・環境系

■都市計画・設計

三浦金作教授〔論文・設計〕

1. アーケードのある街路の空間構成に関する研究
 2. 探索歩行時の注視に関する研究
 3. 街路景観に関する研究
 4. 都市公園に関する研究
 5. 広場・オープンスペースに関する研究
 6. 都市景観に関する研究
 7. 西欧都市構造に関する研究
- 〔設計〕都市デザイン・まちづくり・建築設計

土方吉雄准教授〔論文・設計〕

1. 都市の土地利用に関する研究
 - 1) 土地利用の更新過程
 - 2) 中心市街地
 - 3) 都市マスタープラン
2. 住宅・居住環境整備に関する研究
 - 1) 都心居住・住宅マスタープラン
 - 2) 環境共生住宅地
 - 3) 子どもの遊び環境
 - 4) 居住地の防犯設計
 - 5) 街並み景観ワークショップ
3. 都市設計・まちづくり・建築設計

■建築計画・設計

若井正一教授〔論文・設計〕

1. 人間の行動特性からみた安全性や快適性の研究
 2. 人体動作寸法の生活スペースへの応用研究
 3. 人間の感覚尺度に関する人間工学的研究
 4. 各種建築物のインテリア構成方法に関する研究
 5. 建築・インテリアの設計方法に関する研究
 6. 建築・インテリア関連の資格職能に関する研究
- 〔設計〕
1. 意外性のある空間の提案
 2. その他（学内外のコンペ課題を含む）

浦部智義准教授〔論文・設計〕

1. 劇場・コンサートホールに関する多角的な研究
 2. 文化・医療など施設計画・評価に関する研究
 3. 地域における農村舞台の役割・活用に関する研究
 4. 建築・都市における空間知覚・認知に関する研究
 5. 二地域居住に関する研究
 6. 環境デザイン・バシック建築に関する研究
 7. 震災後の復旧・復興に関する研究
- 〔設計〕社会的効果・計画手法・空間演出など何らかの説得力のある提案

松井壽則准教授〔論文・設計〕

【住居系】

1. 住宅改修・改造（リフォーム）に関する研究
2. 公営集合住宅に関する調査研究
3. 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究

【施設系】

- 1) 通所型在宅サービス提供施設に関する調査研究
- 2) 特別養護老人ホーム・介護型老人保健施設の計画に関する研究
- 3) 保育園・幼稚園の計画に関する研究
- 4) 特殊学級、養護学校に関する調査研究

【地域系・その他】

- 1) 安積開墾の耕地と宅地に関する調査研究
 - 2) 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究
- 〔設計〕上記テーマに関する設計

市岡綾子専任講師〔論文・設計〕

1. 居住空間、住環境、子育て環境に関する研究
2. 学校施設、学習環境に関する研究
3. 子どもの環境行動に関する研究
4. 空間イメージ・空間認知に関する研究
5. 東日本大震災後の避難所ならびに復興に関する研究
6. 廃校施設等の地域施設に関する研究
7. 地域住民との協同によるまちづくり

■歴史・意匠

速水清孝准教授〔論文・設計〕

1. 福島県の建築・都市を中心とする東北地方の近代に関する研究
 2. 福島県の歴史的建造物の発見・維持・保存に関する活動
 3. 日本の近代を中心とする建築の歴史に関する研究
 4. 建築家を中心とする建築技術者の職能と法制に関する研究
 5. 建築技術者の人物史に関する研究
 6. 建築家の作家論に関する研究
 7. 建築技術の歴史に関する研究
- 〔設計〕持続可能な社会に向けたプロトタイプとなり得る建築、ないし特殊解としての建築の提案

大山亜紀子助教〔論文・設計〕

1. 木造建築（社寺・民家）の地域的特性と変遷
 2. 宗教建築の機能に対応した空間構成と意匠・技術
 3. 東南アジアにおける組積造建築の発展と木造技術との相関性
 4. 保存活用・公開を主眼とした地域の歴史的建造物の再評価
 5. 大工道具の実測からみた加工技術と建築作品の関連
- 〔設計〕地域の特性を生かした歴史的建造物の活用

■環境工学

濱田幸雄教授〔論文〕

1. ボイドスラブの床衝撃音遮断性能の改善に関する研究
2. 吹き抜けを有する空間の音響特性及び設計手法に関する研究
3. 床衝撃音の評価方法に関する研究
4. 標準重量衝撃源落下装置の開発
5. 板状材料の音響透過損失特性に関する研究
6. レーザドップラー振動計の応用技術に関する研究

構造・材料系

■構造

浅里和茂教授〔論文〕

1. 鋼構造接合部の耐力評価に関する研究
2. 鋼構造建築物の耐震診断手法に関する研究
3. 建築物の耐震化データベースの構築
4. 有限要素法による鋼構造部材の弾塑性解析
5. 鉄骨製作における品質管理に関する研究

倉田光春教授〔論文〕

1. 知的構造フォルムに関する研究
2. 知的構造解析法に関する研究
3. 地盤・建物の地震時挙動に関する研究
4. 空間構造（シェル・立体構造）に関する研究
5. 構造材料に関する研究
6. 建築における情報技術利用に関する研究
7. その他

千葉正裕教授〔論文〕

日比野巧助教〔論文〕

1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究
2. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
3. 建物の近似振動解析法に関する研究
4. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
5. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
6. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
7. 各種構造解析プログラムの開発

ブントラ・ステンリー・G 准教授〔論文〕

1. 構造フォルム（形態・最適化アルゴリズム）に関する研究
2. 最先端構造解析法（粒子・メッシュフリー・不連続体）に関する研究
3. 地盤・建物の地震時挙動（連成シミュレーション）に関する研究
4. 構造材料（粘弾塑性・弾塑性）に関する研究
5. 建築における情報技術利用（シミュレーションによる検証）に関する研究

野内英治専任講師〔論文〕

1. 空間構造に関する研究
2. 個別要素法を利用した歩行者の動線シミュレーションに関する研究
3. 構造物の崩壊解析に関する研究
4. 各種プログラミング言語を用いた構造解析ソフトウェアの開発
5. 耐震設計法に関する調査・研究

■材料

出村克宣教授〔論文〕

齋藤俊克助教〔論文〕

1. 繊維補強ポーラスコンクリートの開発
2. 竹補強コンクリート・モルタルの開発
3. コンクリートのひび割れ制御・補修技術の開発
4. 鉄筋コンクリート構造物の補修システムの開発
5. 高機能性塗料の開発
6. 遮熱材料・システムの開発

サンジェイ・パリーク 准教授〔論文〕

1. 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた柱・梁接合部に関する実験・解析
2. RC構造物の耐震補強に関する実験・解析
3. 簡易剛性試験装置を用いた各種コンクリートの応力度-ひずみ度特性および破壊解析
4. 建築用内装材・外装材の防火性能
5. 自己修復型（インテリジェント）コンクリート
6. 防せい剤による鉄筋コンクリート構造物耐久性改善
7. インド歴史的石造建造物・インド住宅の調査研究

栗岡均非常勤講師（担当：特別講義Ⅱ）が 今年度の日本建築学会賞（技術）を受賞されました

特別講義Ⅱ（建築デザイン・アーキテクトコース）を担当されている栗岡均非常勤講師を含む4名が、「微細な水粒子幕を用いた防火設備の開発」によって、2011年度日本建築学会賞（技術）を受賞された。本賞は近年中に完成した建築にかかわる技術の発展に寄与し、優れた成果に結実した技術に対して評価されるものである。以下にその受賞理由を掲載（一部引用）し、先生の栄誉を讃えたい。

従来の一般的に多く使用されている防火扉や防火シャッターは、耐火性能のある金属材料で造られ、建物内部における通常の移動経路を塞ぐことで火災の延焼防止を図っている。移動経路を塞ぎ、火災をその発生箇所封じ込めることで人命や建物の構造的な安全性を確保できるものの、避難や消火活動、救助活動にとっては、逆にその存在が阻害要因となる可能性もある。

本技術は、防火区画としての基本性能を満足すると同時に、区画された空間とそれに隣接する空間相互の視認性の確保や自由な人の出入りを可能にする全く新しい防火設備を開発することを狙いとしたものである。区画化された空間相互の視認性が確保されることによって、避難する人にとっては、火災が拡大していない安全な避難方向が見えることから迷うことのない迅速な判断ができ、消火活動時には、火災発生空間の様子が外から認識できることから適切な消火活動を行うことができる。また、自由な人の出入りができることから、車椅子利用者や老人、子供などの弱者にとっては安全な避難が

可能になるほか、担架搬送などの救助活動の妨げになることも少なくなる。

微細な水粒子幕を用いた防火設備を発想し、200 μ mの粒子径の水滴が防火区画としての基本性能を満足することを実験によって確認し、そしてそのための特殊形状をした噴霧ヘッド（スパイラルヘッド）を開発した。次に、この専用開発した噴霧ヘッドを用いて、さまざまな実験・実測を繰り返し、火災発生にともなう熱（対流熱および放射熱）、煙、その他の有害物質の拡散防止に有効であることを確認し、その成果を論文にまとめ、さらには国土交通大臣の認定を取得し、この技術を広く一般が使えるようにした。

本技術の応用範囲は、高齢化社会の訪れにともなう病院や介護施設、バリアフリーが求められる建物が考えられ、「人に優しい」防火設備といえる。また、展示施設や地下鉄の駅舎、空港、ホテルのロビーなどのように不特定多数の人が集まる建物や比較的大規模な空間も応用範囲と考えられ、これまでの一般的な防火扉や防火シャッターと比較して、本技術の優位性が高いといえる。さらに、意匠を損なうことも少なく、例えば曲線を持つ自由な平面形状の空間においても適用可能といえる。

本技術は、建築はもとより土木分野などへの応用が考えられ、良好な社会資産の形成に対して極めて大きな貢献を果たすことが期待される。よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。

Parisからの1通のメール

SHIGERU BAN ARCHITECTS EUROPE

浅見和宏



略歴

- 1991年 日本大学工学部建築学科 卒業
(長澤研究室：建築計画)
株式会社日建設計 入社
2007年 株式会社日建設計 退社
家族と共に渡仏
2008年 SHIGERU BAN ARCHITECTS
EUROPE (Paris)

人の縁とは本当に不思議なもので、私は卒業以来20年間で、母校との接点が一切無かったのですが、パリから送った1通のメールがきっかけとなり、今回このような原稿を執筆させていただくことになりました。そのメールとは、建築家 坂茂が行っている東日本大震災の災害支援活動への、学生ボランティアの参加協力依頼でした。

坂は、東京、パリ、ニューヨークに事務所を持ち、世界中を飛び回っている多忙な建築家ですが、世界各地で災害支援活動を、地元の学生達とのワークショップという形で展開しています。

坂から日本大学工学部の後輩達のワークショップへの参加を打診され、私が在籍していた当時の先生方の連絡先を探してメールを送りました。その時、大学は震災の影響で休校している最中でしたが、土方先生と若井先生からお返事をいただき、その後は市岡さんが中心となって工学部の学生達と一緒に、避難所の仮設間仕切り設置のワークショップに参加していただきました。私は、パリからメールを送ったきり何の協力もできませんでしたが、その後、坂から工学部の学生達の活躍の様子を聞き、後輩達を頼もしく、また大変誇りに思いました。



2011年5月7日、イタリアのラクイラに紙管の仮設コンサートホールが完成し、世界で活躍する西本智美さん指揮のもと、ラクイラ音楽院のオーケストラ演奏によるオープニングセレモニーが開催されました。この仮設コンサートホールは、2009年4月6日に発生したイタリア中部ラクイラ地震に対する災害支援のために、坂が企画したもので、日本政府からの義捐金及び各方面からの寄付により建てられました。このオープニングセレモニーは、被災地ラクイラから東北へ向けての熱いメッセージとして大変有意義なものとなりました。

この仮設コンサートホールは、正方形のプランに、紙管の楕円形のホールを45度傾けて配置したシンプルなもので、メインのファサードを全開すると、中間的領域であるハワイエ越しに、真紅のカーテンに覆われたホールを見ることができます。このボランティアプロジェクトは、私が所属するSHIGERU BAN ARCHITECTS EUROPE (SBAE) が設計を担当しましたので、今回ご紹介させていただきます。

そもそも何故坂が、ラクイラに仮設のコンサートホールを企画したかということ、ラクイラはヨーロッパで広く

知られた国立音楽院があり、音楽家を目指す若者が集まる場所として知られ、震災によって崩壊した国立音楽院の学生達に活動の場を提供し、そしてまたラクイラの街に音楽を取り戻したいと考えたからです。



ラクイラでは、震災後の2009年7月にサミットが開催され、その後の日伊首相による記者会見で、仮設コンサートホールの建設が公式に発表されました。しかし実際には、行政による震災復興後の具体的なビジョンの欠如から、復興後のマスタープランが定まらずに停滞した状態が続き、特に被害の大きかった旧市街の一部は、震災後2年経過した今でも立入禁止の状態が続いています。実はこのコンサートホールも、基本設計が行われたのは2009年6月でしたが、その後、敷地取得の手続き、規模の見直し等で止まり、紆余曲折の結果、敷地と建物規模を変更して、2010年4月に何とか着工にこぎつけました。イタリアでプロジェクトを実現するのは、EU圏内でも特に難しいことは聞いていましたが、今回それを目の当たりにすることとなりました。例えば、ゼネコンは、SBAEの承諾無しに勝手にホールの天井高や形状を変更して施工し、また承認した製品とは全く違う照明や建具を納入したりすることが、頻繁にありました。それらについて是正を求めると、ゼネコンは追加工事費や工期延長を当たり前のように要求してくるといったやり取りが続き、実は、ホールの天井是正工事がオープニングセレモニーまでに間に合わず、仮設の天井と椅子で対応しました。日本では起こり得ないようなことの連続の中で現場が進み、残す所、天井のやり替え工事のみとなりました。竣工予定日はもちろん未定です。

日本に居ると自分が日本人であることなど、空気のように全く意識しなかったのですが、ヨーロッパで仕事を始めてからは、自分が生粋の日本人であることを改めて感じます。それは勤勉さ、謙虚さ、協調性等の日本人によく使われる形容詞では表せない、全ての良い面も悪い面も含めた、日本人としての自分を意識するようになりました。そして、日本人という民族に対する尊敬や誇りを、初めて持つようになりました。これは海外で得た大きな収穫だと思います。これからも高い志と柔軟性を持って自分を磨き、そして良い建築をつくり続けたいと考えています。

東日本大震災・復興に向けて ～工学部卒業生の活動紹介～



蔭山 寿一 1980年卒業（倉田研究室）
 (株)蔭山工務店代表取締役（建設業）
 藤寿産業(株)代表取締役（集成材製造業）
 福島県木造技術開発(協組)理事(木材加工業)

東日本大震災が発生してから3ヶ月、全壊住家1458棟、半壊住家4843棟、郡山市の現状です。当社においても、公共・民間合わせて300件近い災害復旧依頼が来ており、社員並びに協力会社総動員体制で対応に追われています。また、福島県より我々地元建設業者に対し、被災者を収容する応急仮設住宅の公募があり、地産地消を主眼として地元の木材を多用しつつ、部品化・工場加工化により現場における作業の容易性・迅速化を図った当社グループの案が220戸採用され、現在施工されつつあります。私たちは、災害復旧建設を通じて被災地域内にお金を落とし、雇用を生むという経済循環こそが復興の第一歩と信じ復旧作業にあたっております。



丸田 暁子 2002年卒業（千葉研究室）
 エーユーエム構造設計株式会社

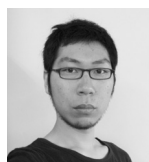
私は、地震が発生したとき、事務所の3階の自分の席に居ました。天井まである本棚を背にした席で、倒れてこないように必死に押さえることで精一杯でした。震災後は、すぐに応急危険度判定の応援要請があり、補助業務でありましたが参加させていただきました。郡山駅前周辺を中心に判定を行いました。外壁のひび割れや地盤沈下している箇所が多くあり、いつも見ていた景色と違って震災を実感させられました。

震災前からですが、業務の大半を耐震診断や補強設計が占めていました。さらに今後は、被災した建物の診断、補強という経験したことのない業務を行うことが予想されます。日々の業務をしっかりと取り組むことが震災復興につながると考えております。



柏木 忠之 1984年卒業（倉田研究室）
 郡山市都市整備部まちなか整備課
 主幹兼課長補佐

地震発生直後から市内の被害状況の把握とともに応急危険度判定調査を実施した。約3,300件を調査した結果、2割強が「危険」、3割弱が「要注意」という甚大な被害であった。さらに、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能被害は、県民生活や県内の産業に大変深刻な影響を与えている。放射能汚染への不安や風評被害による転居や事業所の閉鎖による雇用の喪失により、県外へ人口が流出している。これらの問題に対処するため、市県民税、事業所税及び固定資産税の軽減等により、人や企業の県外流出を抑制する手法や民間開発の促進を図る助成制度等を創出するなど、都市計画、建築行政手法のみならず、他分野と連携した総合的な手法が必要である。



田邊 誠 2007年大学院修士課程修了
 (土方研究室)
 有限会社 阿部直人建築研究所

長く激しい揺れに体の自由を奪われた私は、波打つ床を這いながら、蛍光灯の明滅と何かが壊れる音を感じていた。大変なことが起こったと頭の中は冷静だったが、酷く荒れた事務所を脱出した体は素直に恐怖に震えていた。余震が続く中、竣工間近な物件の確認に行く。車窓から見える街の様子がやはりいつもとは違っていった。帰宅後、荒れた部屋の中で見た津波の映像に愕然とし恐怖し、11日は終わった。

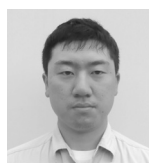
震災から3ヶ月が経ち、福島は原発事故という重い荷物を背負うことにもなったが、この間、ボランティアや建物被害調査、仮設住宅計画など、震災復興の手伝いを続けてきた。まだまだ先の見えない状況にある中で、今、建築に何ができるのかを模索する日々が続いている。



斎藤 正明 1984年卒業（足立・土方研究室）
 (株)斎藤建築設計事務所 代表取締役
 NPO法人しらかわ建築サポートセンター
 事務局長

3月11日、白河市は震度6強の地震に見舞われました。私が所属するNPO法人は「災害時における被害状況調査の支援に関する協定」を白河市役所と締結していることから、応急危険度判定の作業を行うことになりました。余震が続く中、2週間で約1,000件の家屋調査を完了させました。「怖くて住めない。」と訴える人や、不安で眠れない日々を送っている方々に対して、建築士として専門的な立場からサポートすることで、少しでも安心感を得られることを願い、調査を続けました。

今回の震災を通して、地元の建築士として、災害の歴史を学び、防災に対しての技術や歴史を継承しながら、今後多面にわたり地域貢献を続けて行こうと思います。



片桐 良輔 2010年卒業（浅里研究室）
 第一建設工業株式会社

3月11日、仙台勤務だった私は震災直後に被災地域に行き、倒壊寸前のマンションや津波で流出した家屋などの悲惨な光景を目の当たりにし言葉を失いました。この状況下、震災復旧で行った主な仕事は、弊社が建設したマンションの内部調査です。各部屋を訪問し、構造上の問題点や、生活する上で支障がないかなどの調査を行い、可能な限り早期復旧を行いました。直接入居者の方から切なる声を聞き、大学時代からの「世の人の役に立ちたい」という想いを果たすべく、微力ながら私にできる最大限のことをしたいと思いました。復旧後、入居者の方から感謝の言葉を頂き、改めて仕事に対する喜びを感じると共に、建築の仕事を通じて社会貢献ができ、誇りとすることができました。

新任の先生

非常勤講師 二瓶博厚

担当科目：建築意匠特論



日本大学工学部の皆様、はじめまして。
今年4月より大学院で（建築意匠特論）の
授業を受け持っております。

私は東京大学工学部建築学科を卒業、その後博士課程を中退し
昭和46年に建築家故大高正人先生の事務所に入所、建築の世界に
飛び込みました。

事務所在職中は三春町の歴史民俗資料館、福島県立美術館、そ
の他の県内の建築に関わっております。

平成6年から仙台の大学での勤務となりましたが、設計活動を
続ける一方、立场上、福島県景観審議会の委員長、福島県建築文
化賞の審査や数多くの県内の設計審査会の委員長を務め福島県の
建築文化と関わってきました。

そのような建築デザイン活動の中で培ったデザインマインドを
これから世の中に出て活躍する若い学生の皆さんに、伝えること
が出来ればと考えております。

3月の大震災で東北地方は未曾有の危機に直面しております。
一步一步地道な活動をすることによって復興に尽力し（美しいふ
くしま、とうほく）を取り戻したいと思っています。よろしくお
願います。

非常勤講師 秋月直道

担当科目：建築設計演習II



建築家を目指す学生の皆さんこんにちは。
この度非常勤講師に就任しました秋月です。
会津に生まれ、本学理工学部を卒業して随分と年月が経ちまし
た。この間大手組織事務所でのビックプロジェクト（郡山ザベリ
オ学園や会津大学など）や建設会社での設計施工、現在の事務所
での個人住宅やクリニック、能舞台の設計等、多くの経験を積ん
できました。そして今般の大災害に際しては仮設住宅など、今ま
た新たな経験を積み上げている最中です。

建築設計の原点は「人間の存在そのものへの理解」であると考
えています。良い建築を設計するためには人間のありとあらゆる
行為を薄くてもより広く知ることが大切です。（例えば料理をし
たことのない人間にキッチンや厨房の設計は上手くできませんよ
ね!）

もう一つ大事なことは自分の考えていることやイメージをクラ
イアントや施工者に正確に伝えられる能力です。どんなにすばら
しいプランができて、クライアントが納得してくれなければ実
際には建ちません。

授業では私が今までに培ってきた経験を基に単なる建築計画や
設計の技術だけではなく、そのあたりもできるだけ皆さんに伝え
られたら…と思っています。どうぞよろしく!

倫敦雑記

専任講師 野内英治

夏目漱石の「倫敦塔」で最後の種明かしを読み飛ばし、
幻想的な霧を心に纏ったまま倫敦へ来たのだが晴天が続
いている。倫敦塔はまだ訪ねていない。漱石の作品には
倫敦が頻りに顔を出す。英国好きとしては、漱石先生と
世界的な探偵は好みである。滞在して二カ月経つが未だ
に漱石記念館へもHolmes博物館へも足を運んでいない。
勿体ないからだ。そのうち訪れようとは思っている。

私の住処から老舗ハロッズは徒歩圏内である。朝夕の
散歩にハイパークも使える。居場所だけを見ればこい
つ遊びに来たろうとしか思われない。しかし、お世話
になっている大学はそこにあるから仕方が無い。研究内
容は退屈だろうからここでは述べないが、食べ物につ
いて少し触れよう。英国の国民食と言えばフィッシュ&
チップスだろう。魚とジャガイモを油で揚げただけの単
純明快な料理である。ポテトフライそのものをチップス
と言うのは英国式、薄くスライスして揚げたものをチ
ップスというのは米国式英語である。魚には鱈や鯉など
を使う。揚げたての熱々にピネガーやレモンを振りか
けて頬張る。美味いはずだったが。倫敦は初めてでは
ない。ただし最後に訪れたのは十数年前である。二十代
後半に釣竿を担いで、ちょうど国費留学していた友人と
ともに英国内をうろついた。その当時食したこの国民食
は大変美味かった思い出があるが、今食してみるとそれ
ほどでもない。何力所か廻ってみたがこれぞという味に出

くわさない。余計なことを知ったがために世の中がつま
らなくなる。これを知恵の悲しみと言う。開高健が言っ
ていた。食べ物も然りと。しかし、聞いてみるとどうや
らこういうことらしい。観光地では毎回生魚から仕込
んではおられぬ。だから、冷凍加工されたレトルトを使
うと。じゃあ、倫敦では本物は食えないのかというと、
ヴィクトリア駅近くにセレブが高級車で乗り付けてまで
買いに来る店があるらしい。要するにいつの間にか高級
料理に成り下がっていた。模造紙や古新聞に包んで売
っていた店はもはや過去の遺物らしい。過去を大切にす
る国だから観光地に限ったことであってほしいのだが。
テイク・アウェイ（これも英国式英語。お持ち帰りをこ
う言う）ではなく、レストランやパブリックハウス（英国
式一杯飲み屋。通称パブ）で頼めばそれなりのものは食
べられるが10前後とややお高い。が、近所のパブで供
するそれはなかなか悪くない。地ビールを一杯やりなが
ら食すと優雅な気分させてくれる。さすがに大学は伝
統校だけあり、英国料理が学食の主菜である。ロースト
肉とフィッシュ&チップスが日替わりで現れる。これに
付け合わせが二品ついて5前後である。ロースト肉は、
ロースト・ラム、ロースト・ビーフ、ロースト・?何の
肉か分からないが一応食べておく。紙面が足りなくな
った。観光地だけにネタが多くて困る。機会があればまた。

スキャンピ(小エビ)&チップス
良いパブに当たると冷凍物では
ないジューシーな熱々が食せる。
「倫敦の誇り」という地ビールと
共に。



学 術 論 文

* 届け出があった記事を掲載

- ・倉田光春, 杉山和隆; 「歪縮小・復元法に関する基礎的研究」, 日本大学工学部紀要, 第52巻, 第2号, pp.1-8, Mar.2011.
- ・若井正一, 松下信禎, 根本 賢; 「身体周囲に必要なアキ寸法の計測と体系化に関する研究 ―アキ寸法の研究的系譜と特色について―」, 日本インテリア学会論文報告集, 21号, pp.57-63, Mar.2011.
- ・松下信禎, 若井正一: 「窓際着座者からみたVDT作業時の表示画面の見やすさについての一考察 ―地方自治体庁舎における座席配置の実態からみた執務者の着座特性に関する研究―」, 日本インテリア学会論文報告集, 21号, pp.87-91, Mar.2011.
- ・鈴木裕介, Sanjay PAREEK; 「鋼繊維補強コンクリートおよび斜補強筋を用いた高強度RC造柱・梁接合部の弾塑性挙動に関する実験的研究」, 構造工学論文集, 日本学術会議 土木工学・建築学委員会, Vol.57B, pp.551-558, 2011.
- ・Sanjay PAREEK, 熊田廣樹; 「ネットワークを用いた曲げ強度の自己修復機能を有するモルタルに関する基礎的研究」, セメント系材料の自己治癒シンポジウム論文集, 日本コンクリート工学協会, pp.191-196, 2011.

発 表 論 文

* 届け出があった記事を掲載

■日本インテリア学会東北支部研究報告会

日時: 平成23年5月31日 会場: 東北芸術工科大学 (山形県)

- ・階段昇降時の身体動作寸法とその特性に関する人間工学的検討 ～歩行者の足元と段鼻周囲に構成される機能寸法の計測～ 太田成美, 若井正一
- ・自転車の操作に必要な身体動作寸法に関する実験的検討 ～自転車の駐輪と走行に必要なスペースの計測～ 岡田遼, 若井正一
- ・雪のガレリア ～五城目朝市の新たな提案(設計)～ 千田龍成
- ・海彦・山彦のダイドコロ ～生産者と消費者が集う産直市場の提案(設計)～ 松本 学
- ・なべころ坂のいえ ～坂道に建つ集合住宅と街並みの提案(設計)～ 宮下佳和

■日本建築学会東北支部研究報告会

日時: 平成23年6月25～26日 会場: 秋田県立大学

- ・鋼製永久型枠を用いたRC造梁部材の寸法効果に関する研究 ―鋼製永久型枠を梁部材に関する寸法効果の影響― 遠藤正美, 鈴木裕介, Sanjay PAREEK
- ・アルミ薄板を用いたトラスの非線形挙動に関する基礎的研究 三嶋謙裕, 倉田光春, 野内英治, 和田成就
- ・シラン系及び無機系表面含浸材の屋外暴露試験 齋藤耕司, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・自己修復コンクリートの非破壊試験法による補修剤の充填性の評価 大平旭洋, Sanjay PAREEK
- ・インドにおけるCO₂削減を目的とした無焼成レンガ作製方法の検討 齋藤雄仁, Sanjay PAREEK

■日本建築学会東北支部平成23年度役員に、代議員**浅里教授**、常議員**ブントラ准教授**が当選された。

■**松井准教授**と**土方准教授**は、3月5日、田村市より田村市役所本庁舎建設設計者選考委員会委員を委嘱された。

■**パリーク准教授**は、平成21年度から2年間、JCIより「セメント系材料の自己治癒技術の体系化研究委員会」の委員を委嘱されていた。

■**浅里教授**は、4月1日、一般財団法人福島県建築安全機構より構造計算適合性判定評価委員会委員を委嘱され、委員長に再任された。

■**出村教授**は、4月2日、日本大学副総長(研究担当)を再任された。

■**野内講師**は、4月9日、日本大学中期海外派遣研究員として、最新の建築構造デザインに関する調査研究のため、Civil&Environmental Engineering, Imperial College Londonへ海外出張に出発した(9月18日まで)。

■**速水准教授**は、建築雑誌4月号の「特集 日本のデザイン×ビルド」に、「等」に

込められた全体性 ―建築士法の成立に見るデザインとビルド―を寄稿された。

■**濱田教授**は、5月10日、福島県より福島県環境影響評価審査会の委員を委嘱された。また、**市岡講師**は、同委員を再度委嘱された。

■**栗岡均非常勤講師**は、5月30日、日本建築学会より2011年度日本建築学会賞を受賞された。受賞内容は、建築技術部門「微細な水粒子幕を用いた防火設備の開発」である(計4名での受賞)。概要はp. 3にて紹介している。

教室ニュース

■**若井教授**は、5月31日、東北芸術工科大学にて開催された日本インテリア学会東北支部総会において、東北支部長に再任された。

■**浦部准教授**と**浦部研究室**は、福島県応急仮設住宅の公募段階から日本ログハウス協会に協力し、配置計画・住戸設計・建設計画等に参画し、その活動の一部が6月9日付読売新聞に掲載された。

■**浦部准教授**と**浦部研究室**は、6月11日、

コラッセ福島にて行われたJIA福島地域会主催の第2回復興支援会議「福島県木造仮設住宅から復興へ」において、パネリストとして参加し発表を行った。

■**若井教授**は、6月11日、NPO法人・ふくしまユニバーサルデザイン総会において、副理事長に再任された。

■6月17日、ハットNE2階カフェテリアにて、新入生歓迎懇談会が開催され、192名の新入生が参加した。

■**土方准教授**は、6月20日、喜多方市より喜多方市都市マスタープラン等策定委員会委員を再度委嘱された。

■**三浦洵院生**(浦部研・M1)は、6月22日、アエル(仙台市)にて開催されたJIA全国学生卒業設計コンクール2011東北支部審査会において、本選選出作品に選ばれた(7作品中3作品)。

■**人事**: 4月1日付で、**速水清孝准教授**と**大山亜紀子助教**が着任された。また、本学科に永年勤務され教育と研究にご活躍された**狩野勝重教授**が3月31日退官されたが、非常勤講師ならびに上席研究員として学科にご尽力いただいている。

建築学教室教職員名簿

平成23年7月1日現在

■専任教員

教授	浅倉千出	里田葉村	和光正克	茂春裕宣	鋼応構	構 造 学	16号館 1階	106	(956-8734)
教授	濱三若	浦井部	幸金正	作一義	材 料 学	学 学	16号館 2階	204	(956-8732)
教授	浦速	水	清	孝	環 境 工 学	学 学	16号館 2階	205	(956-8733)
教授	S. N. パリ	ーク	雄	建 都	建 築 環 境 工 学	学 学	9号館 1階	114	(956-8740)
教授	土 方	吉	雄	建 都	市 計 画	学 学	16号館 3階	310	(956-8752)
教授	ブ ン	タ	S. G.	工 工	建 築 計 画	学 学	45号館 2階	207	(956-8753)
教授	松 市	井 岡	綾 子	建 近	代 建 築	史 学	45号館 3階	301	(956-8750)
教授	野 大	内 山	英 紀	建 都	建 築 化 学	学 学	9号館 3階	309	(956-8743)
教授	齋 日	比 野	巧	建 都	建 築 市 計 画	学 学	9号館 3階	310	(956-8872)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	9号館 1階	102	(956-8747)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	45号館 3階	304	(956-8742)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	16号館 2階	206	(956-8735)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	45号館 2階	205	(956-8751)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	45号館 3階	305	(956-8746)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	16号館 2階	207	(956-8744)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	9号館 3階	308	(956-8737)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	9号館 1階	114	(956-8740)
教授	日 比	野	巧	工 工	学 学	学 学	16号館 2階	205	(956-8733)

■大学院：兼任教員・非常勤講師

兼 担 教 授	根 上	彰 生	地 域 計 画 特 論	45号館 2階	207	(956-8753)
兼 担 教 授	本 杉	省 三	建 築 設 計 計 画 特 論	9号館 3階	309	(956-8743)
兼 担 講 師	近 藤	典 夫	応 用 数 学 特 論	16号館 2階	204	(956-8732)
非 常 勤 講 師	石 井	久 克	建 築 設 計 計 画 特 別 実 習	45号館 3階	301	(956-8750)
非 常 勤 講 師	狩 野	勝 重	建 築 技 術 史 特 論	16号館 3階	309	(956-8730)
非 常 勤 講 師	熊 倉	洋 介	建 築 設 計 計 画 特 別 実 習	45号館 2階	207	(956-8753)
非 常 勤 講 師	長 澤	文 泰	建 築 設 計 計 画 特 論	45号館 3階	301	(956-8750)
非 常 勤 講 師	濱 古	博 文	建 築 構 造 設 計 特 別 実 習	16号館 1階	106	(956-8734)
非 常 勤 講 師	三 浦	敏 雄	建 築 意 匠 特 論	45号館 3階	301	(956-8750)
非 常 勤 講 師	三 浦	敏 伸	建 築 設 計 計 画 特 別 実 習	45号館 3階	301	(956-8750)

■学部：非常勤講師

非 常 勤 講 師	秋 月	直 道	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	阿 部	直 人	建 築 設 計 計 画	45号館 3階	304	(956-8742)
非 常 勤 講 師	倉 持	幸 由	建 築 施 工	16号館 3階	309	(956-8730)
非 常 勤 講 師	栗 岡	均 男	特 別 講 義	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	近 藤	道 孝	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	境 久	宏 一	建 築 施 工	16号館 2階	204	(956-8732)
非 常 勤 講 師	佐 藤	英 次	建 築 設 計 演 習	45号館 3階	304	(956-8742)
非 常 勤 講 師	島 田	マ リ 子	建 築 設 計 計 画	16号館 2階	207	(956-8744)
非 常 勤 講 師	田 中	雅 美	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	富 中	松 太	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	207	(956-8753)
非 常 勤 講 師	中 野	崎 淳	建 築 設 計 企 画	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	橋 本	寛 夫	建 築 情 報 処 理 演 習	45号館 3階	304	(956-8742)
非 常 勤 講 師	早 野	由 美	建 築 設 計 演 習	16号館 3階	310	(956-8752)
非 常 勤 講 師	原 澤	一 仁	建 築 構 法	16号館 3階	309	(956-8730)
非 常 勤 講 師	平 野	由 朗	建 築 造 形 演 習	45号館 3階	301	(956-8750)
非 常 勤 講 師	藤 田	延 幸	建 築 設 計 計 画	16号館 2階	207	(956-8744)
非 常 勤 講 師	堀 下	正 人	建 築 設 計 演 習	9号館 3階	309	(956-8743)
非 常 勤 講 師	松 田	房 夫	建 築 設 計 演 習	45号館 3階	304	(956-8742)
非 常 勤 講 師	陽 田	秀 英	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	山 添	正 典	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	16号館 3階	310	(956-8752)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	16号館 3階	310	(956-8752)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	45号館 3階	301	(956-8750)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	16号館 3階	309	(956-8730)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	16号館 3階	309	(956-8730)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	45号館 3階	301	(956-8750)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	45号館 2階	205	(956-8751)
非 常 勤 講 師	渡 邊	和 宏	建 築 設 計 演 習	45号館 3階	304	(956-8742)

■事務職員

教 室 事 務	小 林	ま ゆ み	建 築 学 科 セ ン タ ー	16号館 3階	309	(956-8730)
---------	-----	-------	-----------------	---------	-----	------------